

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	廿日市市立廿日市小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	30
児童数	113	116	114	115	114	113	4	689	

研究の概要

1. 研究主題

<p>個に応じた指導を通した確かな学力の定着 ～子どもの主体的な学びを育む伝え合う力の育成～ (国語科・算数科を中心に)</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 3,4年生・国語 CRTやアンケートなどの実態調査から,児童の理解の状況に差が見られ,当該教科に対して苦手意識を持った学年であるため。 学校として,今年度の研究教科であるため。 ・ 5,6年生・算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科,学年であるため。 学校として,今年度の研究教科であるため。
--

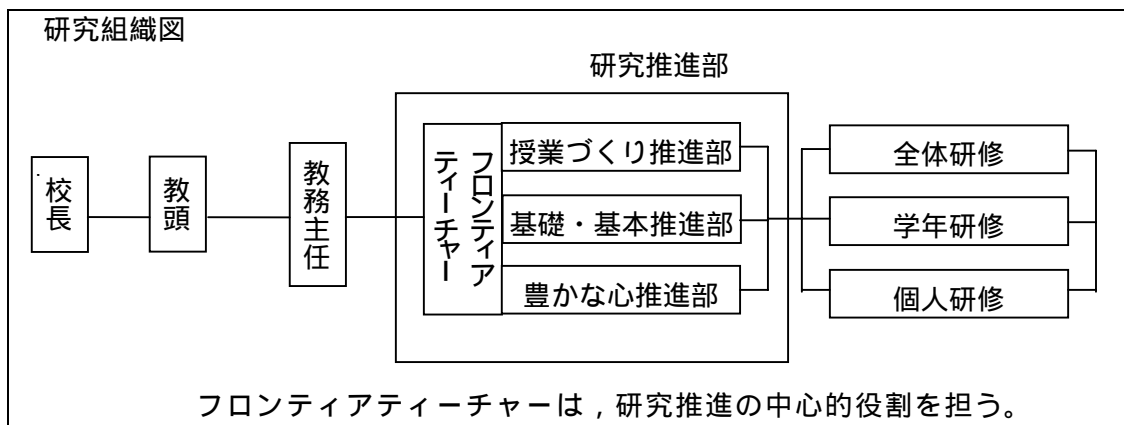
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個に応じた指導を通した確かな学力の定着 ～子どもの主体的な学びを育む伝え合う力の育成～ (国語科・算数科を中心に)</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科において,個に応じたきめ細かな指導や効果的な支援と評価を通して「伝え合う力」を育成すれば,児童相互の学びが深まり,一人一人に確かな学力を定着させることができるであろう。 ・ 算数科において,国語科で培った伝え合う力を基盤として,練り合いや話し合い活動を工夫したり,個に応じた補充的・発展的な学習を工夫したりすれば,思考が深まり,より確かな学力が定着できるであろう。 <p>研究の内容・方法</p>
--------	---

	<p>研究主題にせまるために、指導方法の工夫・改善、基礎基本の定着、話す力・聞く力・読む力の育成を取組みの柱とし、また、伝え合う力を育むために、自分は何を伝えたいのか 相手は何を伝えているのかを明確にさせて研究を進めてきた。全校の取組みとして、</p> <p>児童の実態及び学習状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CRTテスト、基礎基本定着状況調査 ・レディネステスト ・学習後の振り返りカードや自己評価 ・学習前と学習後のアンケート ・個人カルテ <p>指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T・T指導 ・少人数指導、コース別指導 ・習熟度別指導 <p>ワークシートの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟に応じた多種のワークシート (ヒントコーナーや発展学習コーナー) ・支援カード <p>基礎基本の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書 ・ひびき合いタイム ・チャレンジ10 <p>などに取組み、国語科・算数科としては、自分の考えを明確に持つための読み取りの活動や考える活動、分かりやすくまとめてワークシートやノートに書く活動、思いや考えを発表する活動に取り組んできた。さらに、自分の考えと相手の考えとを比較するなどして、国語科では考えを深めるための話し合い活動に、算数科では課題解決に向けての練り合いの活動などにも取り組んできた。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>個に応じた指導を通した確かな学力の定着 ～子どもの主体的な学びを育む伝え合う力の育成～ (国語科・算数科を中心に)</p> <p>研究の見通し</p> <p>引き続き今年度の仮説を設定し、国語科では読むことと話すこと・聞くこととの相関関係をさらに明らかにしていく。また算数科では、練り合い活動と思考力との相関関係を明らかにしていく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態把握および学習状況の把握 ・指導方法の工夫 ・ワークシートの開発、ノートの活用 ・基礎基本の充実 ・研究体制の充実(教科別の推進体制) ・多様な指導法を生かすための学びの環境づくり・地域人材の活用のあり方 <p>以上の内容・方法で更に研究主題に迫る。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

< 国語科の実践 >

国語科アンケートより（4月実施）



各学年の取組み

1年	・いろいろなふね	習熟に応じたワークシートの開発，対話活動での細かな個別指導
2年	・教えてあげる，たからもの ・ピーバーの大工じ	話す・聞く活動での細かな個別指導，習熟に応じたワークシートの開発

3年	<ul style="list-style-type: none"> ・しょうかいしようお気に入りの場所 ・「お祭り事てん」を作ろう 	事前事後テスト(同一問題), 支援カードを使ったワークシートの開発, モニターを取り入れた対話活動, 個人カルテの活用
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・知らせたい, あんなことこんなこと ・ヤドカリとイソギンチャク ・教え合おう「生活のくふう」 ・ごんぎつね ・ウミガメのはまを守る ・言語事項に関わる小単元 	話す・聞く・話し合う活動での細かな個別指導, T・Tでのコース別学習や少人数指導, 習熟度別指導, 習熟に応じたワークシートの開発, 個人カルテの活用
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・垂直と平行 ・いろいろな四角形 ・少数のわり算 ・図形の角 	T・Tでの少人数指導, 習熟度別指導, 練り合いの場づくりの工夫
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・分数のかけ算・わり算 ・倍と割合 	

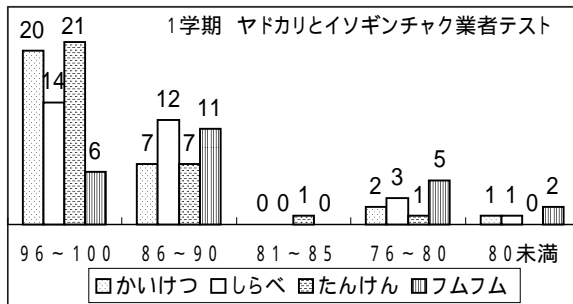
4年生の実践

(1) 読む力をつけるために

説明文教材を3学級4展開, 1学級2展開の習熟度別指導で, 物語文教材をT・Tによる指導で取り組んだ。両教材とも, 個に応じるための習熟に応じたワークシートを開発して活用した。

実践 ヤドカリとイソギンチャク

	フムフムはかせ (補充コース)	たんけんくん, しらべちゃん (基礎コース)	かいけつてんし (発展コース)
内容	読み取った内容をワークシートにまとめ, それがパンフレットとなる。	読み取った内容をワークシートにまとめ, それらのシートを元にパンフレットに作り直す。	ワークシートを使った読み取り学習の後に調べ学習を行い, その内容も含めたオリジナルパンフレットを作る。
ワークシートの工夫	指示語や接続語をキーワードにしての抜き書きが主で, 自分の考えは吹き出しに書かせていく。	段落ごとに読み取った事柄をそのまま抜き書きにするのではなく, 自分のことばで文章に表したり, 絵や図, さらに漫画で表したりと自由な表現方法で仕上げていく。	段落ごとに読み取った事柄を文で書きまとめていく。
目標	読み取った内容と合う記述を, 正しく吹き出しに書く。	大切な事柄を落とさずに, 文意の通る文で書く。絵や図, 漫画の中に大切な事柄やことばを落とさずに書く。	大切な事柄を落とさずに, 文意の通る文で書く。

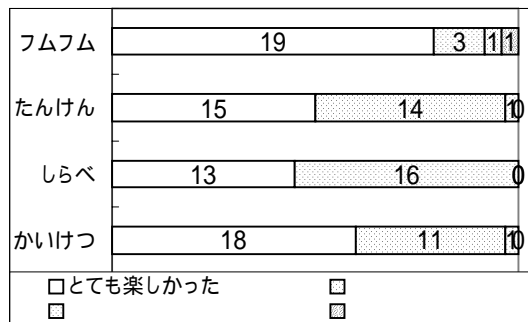


平均点
 フムフム 89.6点
 たんけん 96.3点
 しらべ 96.9点
 かいけつ 95.4点
 (期待得点 84点)

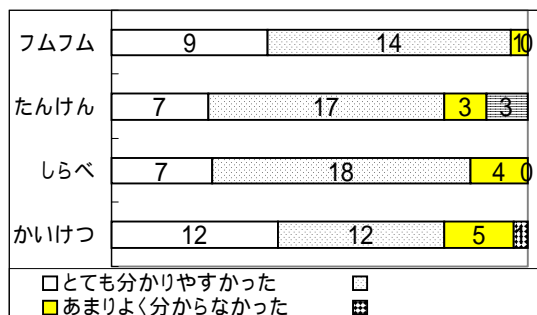
コースごとに児童の力に合わせたワークシートを活用したことで、説明文教材の読み取りの方法が身につく、分かりやすく意欲的に学習を進めることができた。学習の成果物であるパンフレットも互いに見せ合って自慢していた。学習後のふり返りカードによると、どのコースの児童も「学習が楽しくできた」、「ゆっくり進んで分かりやすかった」、「ワークシートが良くて分かりやすかった」という思いを持っていた。グラフからも分かるように、ほとんどの児童が期待得点を上回る点数をとっていた。特に、補充コースの児童は学習進度に満足し、できる喜びを感じたり、できた自分に自身を持ったりしていた。教室に戻って「見て見て」とワークシートを持ってくる児童もいた。

<学習後の児童のふり返り>

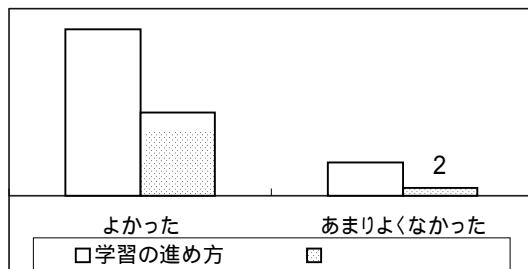
(1) あなたの学習コースでの勉強はどうでしたか？



(2) ヤドカリとイソギンチャクという説明文の読み取り学習はどうでしたか？



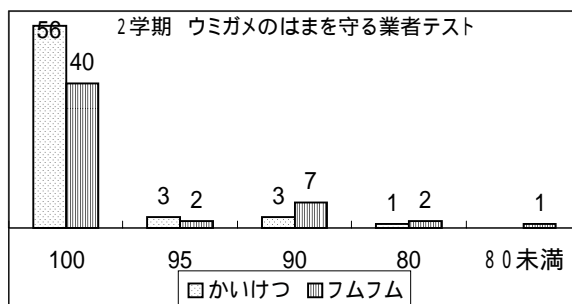
(3) コースの学習でよかったところやあまりよくなかったところは何ですか？



主な意見
 学習の進め方
 ・進む速さが丁度よかった。
 ・板書、絵や図があって分かりやすかった。
 パンフレット作り
 ・満足いくものができた。

実践 ウミガメのはまを守る

	フムフムはかせ (基礎コース)	かいけつてんし (発展コース)
内容	段落ごとに読み取った内容を書き出してワークシートにまとめる。	段落ごとに読み取った内容をワークシートに書きまとめる。
ワークシートの工夫	内容の要約を穴埋めにした発展課題を取り入れた。	接続語を考えたり内容の要約をさせたりするなど、発展課題を取り入れた。
目標	文意が通るように大事な事柄を抜き出して書く。	大事な事柄を落とさずに読み取って、文意の通る文を書く。

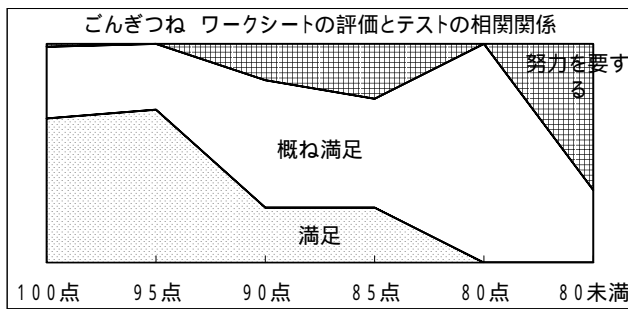


平均点
 フムフム 96.92点
 かいけつ 98.97点
 (期待得点84点)

意味段落ごとに読み取り学習をし、その後一斉指導として段落のふり返りと要点づくりの時間をとっていった。ふり返りでは、読み取った事柄の確認をしたり、発展課題である内容の要約を発表したりした。その中で、基礎コースは自分のことばでまとめる方法を、発展コースは大切な事柄をどうつなげて文にしていけるかの方法を、互いのコースのワークシートから知り合うことができた。また、他のコースのワークシートを見て、自分の力を見直してコース変更をする児童もいた。グラフからも分かるように、業者テストでは両コースとも高い得点を得ることができた。

実践 ごんぎつね

内容	叙述に沿って読み取ることが苦手な児童への手だてと得意な児童への発展課題を付けたワークシートを作成し、TTで学習を進めていった。そして、読み取った内容から自分の考えを持たせ、それをグループで話し合うことで、さらに個々の読みを深めさせていった。
ワークシートの工夫	ワークシートでは、場面ごとに教材文をプリントして、どの部分から何を読み取って自分の考えをもてばよいのか分かるように線を引かせた。また、話し合い後に自分の考えがどう変わったか記述する欄も設けた。
目標	読み取りのめあてについて自分の考えを書く。話し合い後に変容した自分の考えを書く。



グラフから分かるように、内容が正しく読み取れ、自分の考えをワークシートに記述している児童ほど、業者テストで高い得点を獲得していた。ワークシートの記述内容とテストには相関関係があることが分かった。

以上の実践から、教材文から大切な事柄を読み取ったり、読み取った事柄から自分の考えを持ったりすることができる児童が増えた。そして、話し合い活動を通して、自分の考えを持てるようになったり新しい考えを見つけたり、自分の考えをさらに広げたりできる児童も増えた。また、読み取るスピードも上がり、発展課題に進むことができる児童も増えた。

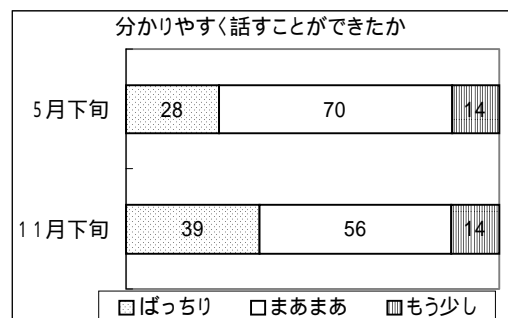
(2) 話す・聞く力をつけるために

自分の伝えたい事柄を相手に分かりやすくまとめて話したり筋道を立てて話したりすることを苦手とする児童が多く、正しく読み取ってもそれを相手にうまく伝えられなかったり、自信がないからと発表することを避ける児童が多かった。また、相手の伝えたい事柄を的確に聞き取って自分の考えと比べる様子もあまり見られなかった。そこで、普段の学習の中で相手意識を持って発表すること、友だちの発言に共感や反対などの意思表示をすることから始めた。また、2単元の学習で少人数指導を行うとともに、授業記録などを残しながら効果的な指導や支援、評価を行った。

その結果、人前で話す活動を意欲的に行う児童が増え、めあてを意識した話し方が自然とできるようになってきた。他教科でもその成果が見られる。グラフでの自己評価の理由も、5月下旬では失敗があったことを多く挙げていたが、11月下旬ではめあてが守れて満足できたという記述が多かった。

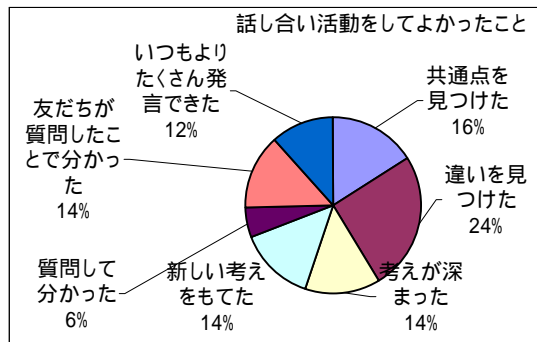
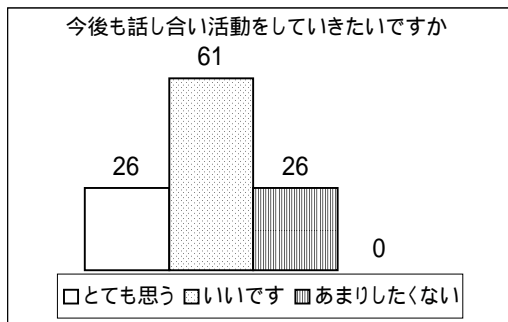
失敗についても今後それを直してもう一度活動したいという記述もあった。一方、単語や短文で書かれているメモから話を構成していくことが難しく、原稿や作文にしないと上手に話せないという児童も5月下旬に比べると減ってきている。

話を聞くときには、メモをとらせて意見や感想を発表させた。メモはとれるが、それらを組み合わせて自分の考えとして発言することが難しく、始めは、話し手の技法に対する発言が多かった。そこで、話の内容に対する発言をするように促していった。



実践の「ごんぎつね」での話し合い活動では、自分の考えをワークシートに整理してから話し、聞き手も自分のワークシートの考えと比べながら話し手に対する意見を出させていった。相手に分かりやすく筋道を立てて話すこと、話の中心点を考えながら聞くこと、相手と自分の考えを比較して共通点や相違点を見つけて意見を出すことなどをねらった。

< 学習後の児童の振り返り >



成果

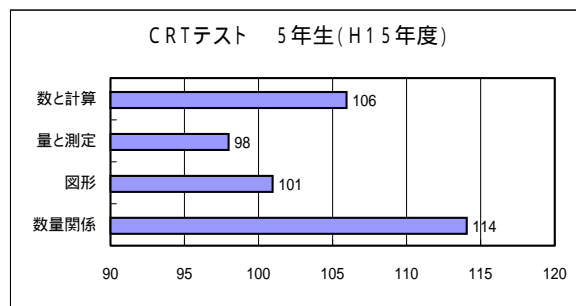
ワークシートを工夫して内容を正しく読み取ることで、話す・聞く・話し合う活動が活発になり、伝え合う力がついてきている。

< 算数科の成果 >

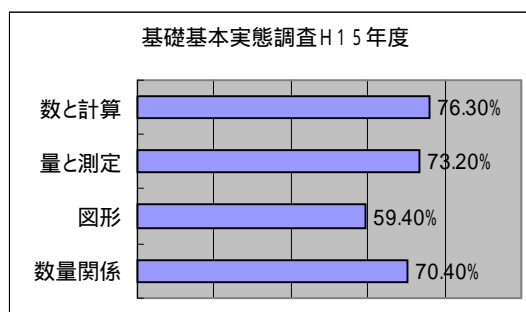
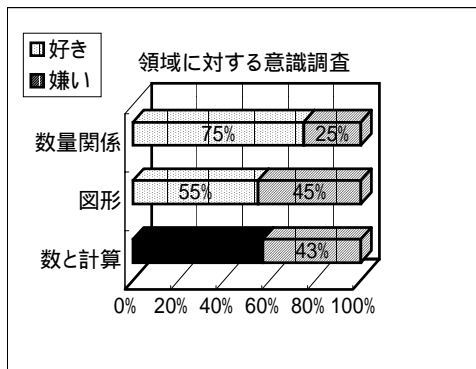
5年生の実践

《児童の実態》

本校では、昨年度の5年生の基礎基本実態調査、及びCRTテストの結果から、算数科においては特に図形領域に課題があることが明らかになっていた。本年度についても広島県基礎基本定着状況調査やCRTテストから、昨年度より改善されたとはいえ、5年生児童の意識調査(図)からも図形領域に対する苦手意識が多く、それに伴う量と計算の領域も引き続き課題であるとらえた。



(図)



課題1 図形領域を苦手とする児童をみると、用具が正確に使えない(分度器・コンパスなど)、きまり(定義)を覚えていない、用具を使うのに手間取ることから面倒くさがる等の実態がみられる。

課題2 図形領域を得意とする児童とそうでない児童との理解の差が他の領域より大きく、一斉授業の中では分からないことを自ら解決するための時間を充分にとれず、人の解説を聞いて分かった気になる授業展開になりがちである。

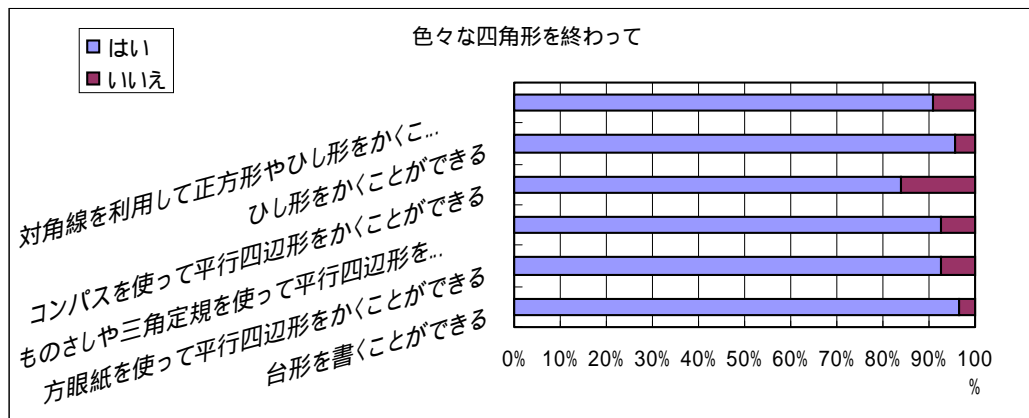
《指導形態の工夫》

一学期・・・T・Tによる一斉指導、1学級2展開による同質少人数指導

単元名 「垂直と平行」「色々な四角形」

ここでは具体的操作活動を多く取り入れながら理解の浸透を図り、個に応じた指導ができるように基本的に少人数指導を取り入れた。その結果、少しずつではあるが、技能面での定着も促進されてきた。(資料)

(資料)



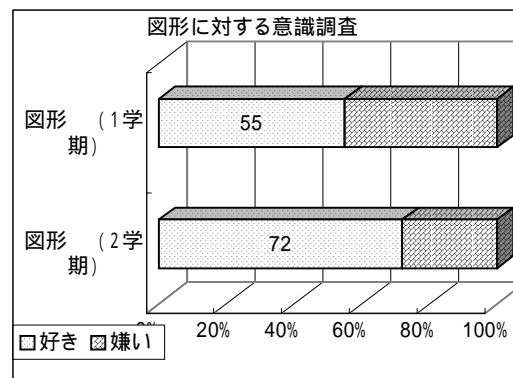
二学期・・・T・Tによる一斉指導+習熟度別指導，1学級2展開による同質少人数指導+習熟度別指導，1学級2展開による習熟度別指導

単元名「図形の角」「図形の面積」

ここでも、児童自らが定義に気づけるよう学習プリントを多く用意し、納得いくまで操作させるところから始めた。その結果、三角形の性質を元として、自分たちでたどり着けた定義についてはよく認識できていた。

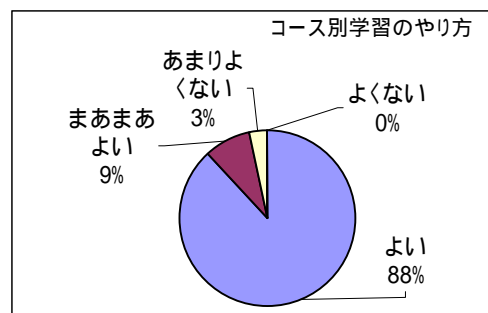
資料

習熟度別指導では、基礎コースは、できるだけ一人一人の用具活用時間を多く取り、用具の使い方の不慣れからくる苦手意識を少なくすることに留意して学習を進めた。そのため、多様な考えを出し合うことは少なくなるだろうと考えていた。しかし理解度が似通っているため、かえって分からない問題について分からないとアピールすることができ、共に考え合いながら理解を深めることができた。

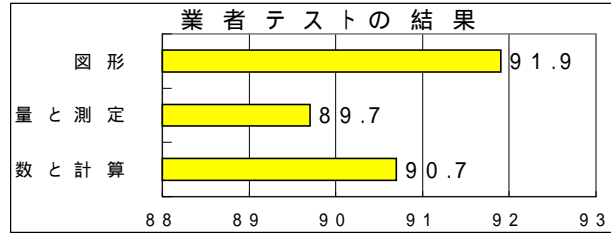


発展コースは、自分の考えを出し合う時間を多く取り、説明し合う学習活動を多く取り入れた。求積方法も一つではないこと、図形を書きながら自分が分かりやすい方法を見つけることに重点をおいた。また少人数での学習なので、常に机間指導で評価しながらの学習展開ができた。それが児童の自信につながり、挙手も増えてきた。その結果、図形領域に対する意識調査も肯定的評価が増えてきた。(資料)

それに伴って、業者テストの結果も図形領域が高まってきている。また、学習後の線結び法による振り返りカードで、97%の児童が「自分のペースに合っていたのでコースに別れて良かった」と肯定的評価をしている。



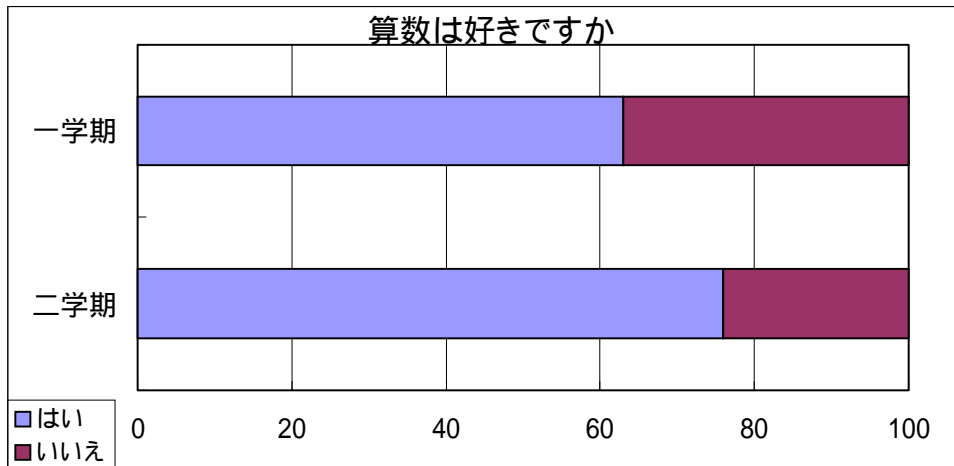
授業の流れは、次の通りである。



単元	学習の流れ	留意点
図形の角		<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導に慣れてきているので単元の最後を習熟度で復習・まとめをすることを伝えておく。 ・習熟度に分かれるときは、自己評価を中心に行う。練習量の差による個への対応 ・レディネステスト、アンケート希望調査・教師の判断で、次時のコース分を行う。
図形の面積	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">がっちりコース(基礎)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ばっちりコース(発展)</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>操作活動を多く取り入れ、基本的には、教師の説明で理解した上で練習問題を自分でやるやり方。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の考えを説明する場面を多くとり、人の考えと比較しながら進めていく。すすみ具合も少し速く、余った時間は、練習問題に当てるやり方。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態に応じて弾力的に対応する。 ・理解が不十分と感じたときは、一時間扱いの内容も二時間で対応することもあり得る。他のコースは、補充問題を行い、調節する。 ・途中でのコース変更も可能。 ・振りかえりにより、児童の思いをくみ取る。

練り合いや話し合い活動と学習意欲の高まりとの関係については、一単位時間の中では友だちの考えに耳を傾け、特に基礎コースで「あっ、分かった。」という声が聞こえる場面が多い。そして、分かることが学習への楽しさにつながり、学習意欲にも繋がっていることがアンケートからも分かる。(資料)

資料



成果

算数科における習熟度別指導は、児童一人一人が自分の考えを出しやすく、学習意欲をたかめることができることから、特に図形領域を中心として学力が向上してきている。

学校全体としての成果

- ・ 伝え合う力の育成につながる発表や対話、話し合い活動の場づくりを工夫することができた。また、効果的な支援の仕方を考え、実践していくことができた。
- ・ 少人数指導や習熟度別指導などの新しい指導法を効果的に活用し、教材の開発・展開をすることで、個に応じたきめ細かな指導をすることができた。また、児童の実態に合う指導形態を工夫することで学習に対する意欲が見られるようになってきた。
- ・ 個に応じた指導を行うために、ワークシートを開発したり自己学習が進められるようにワークシートの支援カードを作成したりするなどの工夫を行った。その結果、子どもたち一人一人が意欲的に分かる喜びを感じながら学習を進めることができた。さらに、課題意識を持って思いや考えを交流し合うことで、伝え合う力が付いてきている。
- ・ 算数科をはじめ他教科でも、自分の考えを説明したり友だちの考えを受け止めたりするときに、目的意識、相手意識を持って話し合う様子が見られるようになり、考えを交流し、深め合ったりすることに成果が見えてきている。
- ・ 個に応じた多様なコースを設定し、子どもたち自身が自分でコース選択をしたり、そのために教師が支援をしたりすることで、自己評価力につながる意志決定の良い経験の場とすることができた。
- ・ 個に応じた指導を行うために、個人カルテを活用してきめ細かな評価を行い、次時の学習の指導や支援に生かしていけるようになった。
- ・ T・T指導や少人数指導、習熟度別指導など多様な指導形態に取り組むことで、これまでの指導を見直し、より効果的な指導のあり方を求めようとする職員の意識を生んでいる。また、そのことは、授業改善への新たな視点につながってきている。

2. 今後の課題

- 国語部会・算数部会を設置する。
- ・今年度の研究成果を基盤に，各学年の児童の実態や国語科・算数科，それぞれの単元の特性に合う指導方法，指導形態，評価のあり方を引き続き研究推進していく。
 - ・子どもたちが主体的に学び，より効果的なものになるようなワークシートやノート活用のあり方を研究していく。
 - ・限られた指導体制の中でより効果的な指導方法を研究していくために，地域の人材活用に取り組んでいく必要がある。さらには，元の学級数と同数の学習集団による習熟度別指導の展開のあり方を開発していく。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査（CRT）の実施（年1回 市内統一）
昨年度のCRTテストの結果分析をもとに児童の状況を把握し，本年度始めの指導について検討し，年度末の実施で研究の分析を試みる。
年度始めの学習や生活に関する意識・実態調査
個人カルテ・小テスト等による形成的評価
プレテスト，単元末テストでの比較
単元末の自己評価

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成16年度 公開研究会
日 時 平成16年11月 末（予定）
場 所 本 校
テーマ 個に応じた指導を通じた確かな学力の定着
～子どもの主体的な学びを育む伝え合う力の育成～
（国語科・算数科を中心に）
対 象 市内・県内小・中学校教員
目 的 研究結果の報告・交流
- ・HPでの報告

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	6学級以下	7～12学級
	13～18学級	19～24学級
	25学級以上	

【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	